

有用広葉樹による新たな地域産業資源創出への挑戦 ～日本一の薬木生産地を目指して～

夕張市建設農林課農林係 主任 武田 信仁

事業の背景・目的

夕張市内の私有林では、森林資源の循環利用が進んでいない状況にあります。そこで、森林資源を多様な地域産業資源としてフル活用することにより、雇用の創出と森林資源の循環利用を図るため、漢方薬としての利用が見込まれる薬木のキハダとホオノキを新たな地域産業資源として位置づけました。

将来、樹皮を生薬原料として販売する他、キハダ材はクラフト原料や家具材、ホオノキ材はノック用バット、キハダの開花期には植栽地を蜜源として養蜂家に貸付する等、多角的に利用していく予定です。

林齢	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60
しこ				ハチミツの採取、間伐作業、樹皮採取作業、木材搬出作業etc									
しこ	植栽木の保育作業												
ホオノキ	漢方薬メーカー等と連携			樹皮を生薬原料として採取（間伐＝樹皮採取）									
ホオノキ	製材所と連携			樹皮採取後の幹をノックバット向けの原木として搬出									
キハダ	養蜂家と連携			蜜源として植栽地に巣箱を設置し、ハチミツを採取（空間活用）									
キハダ	漢方薬メーカーと連携			樹皮を生薬原料として採取（間伐＝樹皮採取）									
キハダ	木工関係者と連携			樹皮採取後の幹を木工クラフト等の材料として搬出									
キハダ	家具産地（旭川周辺等）関係者と連携			樹皮採取後の幹を国産家具の材料として搬出									



事業内容

主な事業内容は下記のとおりです。

- ・カラマツ林(13齢級)を残存列幅40m、伐採列幅40mで帯状に伐採
- ・伐採列の地拵は、グラップルによりササを引抜き、末木枝条等とともに残存列林縁に集積
- ・伐採列ごとに単一樹種（キハダ及びホオノキ）を植栽
- ・植栽密度はキハダ、ホオノキともに2,000本/haと1,000本/ha
- ・シカ等の食害対策のため、植生保護管（右写真）を設置、また、植生保護管を設置しない対照区（キハダ、1,000本/ha）も設置



現状と課題

これまでに、明らかとなった問題点と課題として取り組む事項は下記のとおりです。

- ・最大瞬間風速が15m/sを超える「強い風の日」に、植生保護管が倒伏。いずれも、礫混じりの土壌で支柱を20cm程度（仕様は30cm）しか打設出来なかった箇所であったため、支柱の設置方法を検討します。
- ・積雪のグライドによる植生保護管の倒伏発生状況を傾斜別、植生密度別に調査します。
- ・薬効成分が遺伝由来なのか土地由来なのかを調査します。
- ・キハダ、ホオノキともに樹皮に苦味があり、食害を受けにくい事も考えられるため、植生保護管を設置しない対照区における、シカやネズミによる食害状況等をモニタリングします。

今後の展開

モニタリングを行いながら、随時、結果に応じてフィードバック管理を行いながらキハダ・ホオノキの植栽を進め、薬木産地化に取組み、夕張メロンに次ぐ、新たな地域産業資源として定着を図ります。